


獨協大学長 殿

学外研修報告書

私は、学外研修員として出張しておりましたが、このたび研修を終えて帰任いたしました。つきましては、次のとおりご報告申し上げます。

報告日	2023年 4月 3日	所属	交流文化学科
職名	教授	氏名	須永 和博 
研修種別	1. 海外 <input type="checkbox"/> 2. 国内 <input checked="" type="checkbox"/>	研修種類	1. 長期 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 短期 <input type="checkbox"/>
研修期間	2022年 3月 21日 ~ 2023年 3月 20日		
学外における主な研修機関および訪問先 立教大学			
出張目的または研究題目 ポスト・コロナ時代における観光とローカル・コミュニティの動態に関する文化人類学的研究—東南アジアを事例として			
資格	1. 2021年度獨協大学学外研修員（派遣） 2. 本学承認の学外研修員（自費等） 3. その他（ ）		
大学から支給された費用（要清算書類）・補助金額		50 万円	
研修内容（1. 研修経過の詳細 2. 研究成果発表の予定 3. その他 を記入）			
1. 研究経過の詳細			
研修期間中は、ポストコロナ時代の観光のありようについて、国内（北海道）および海外（タイ王国）にてフィールドワークを行い、その現状や課題について情報収集を行った。現地調査に際しては、学外研修に際して支給された補助金を利用した他、現在関わっている科研費の研究プロジェクト「タイ地方都市における創造都市化とローカル・コミュニティ再編に関する民族誌的研究」や「観光学 3.0 へ向けたツーリズム・モビリティの			

提出先：所属学部長→学長→人事課

裏面につづく

再考」の一部を利用した。以下、学外研修の研究課題に直接関連するタイ国における現地調査の概要を紹介する。

(1) タイ南部旧市街地域におけるまちづくりの現状調査

タイ国では、20世紀前半まで舟運が盛んに行われていた。それゆえ主要河川や海沿いに交易拠点が形成され、コスモポリタンな都市空間として発展していった。20世紀後半に入ると、これらの都市は、鉄道・道路などの開発や産業構造の転換などにより衰退していくのだが、近年一部の地域では「旧市街（ヤーン・ムアンガオ）」と再評価され、観光消費の対象としても注目されている。こうした動きは、地域コミュニティによる歴史の掘り起こしなど、まちづくり運動を活性化することにもつながっている。

今回の調査で筆者は、特にタイ南部の旧市街地域に焦点を当て、その現状について調査を実施した。具体的な地域としては、プーケット（プーケット県）、タクアパー（パンガー県）、ソンクララー（ソンクララー県）の3地域である。これらの地域では、地元の文化遺産をアートやデザインなどクリエイティブな手法を生かして活性化していく取り組みが行われている。そしてその過程で、外部アクターと地域コミュニティの間に複雑な社会関係が形成されている。そこで本調査では、まちづくりに関わる諸アクター間関係に焦点を当て、それによって再編されるコミュニティの動態について考察を行なった。なお、旧市街地域の観光化は、ポストコロナという時代状況を背景に、各地域への観光者の分散を図りたい政府の思惑や地方都市の創造都市化を進める文化政策とも関わっており、特定地域でのミクロな集約的調査に加え、国家レベルの観光政策や文化政策の動向についても情報収集を行なった。

(2) タイ北部先住・少数民族コミュニティの生活世界再編に関する現状調査

新型コロナウイルスのパンデミックを背景に、一部の先住・少数民族社会では、伝統的生業・文化への関心が高まり、都市部で就労していた若者が出身村へ帰還するといった現象が生まれている。こうした中、コミュニティ・ベースド・ツーリズム（CBT）などを活用しながら、自律的かつ持続可能な生活空間を再構築していこうとする新たな動きもみられる。そこで筆者は、2000年代初頭から調査を続けているチェンマイ県やメーホンソン県の先住・少数民族をはじめとするコミュニティにて、その現状について調査を実施した。

また、2020年以降、政府の渡航制限等により現地調査が出来ていなかったため、今回の調査では、先住・少数民族をはじめとする人々がコロナ禍にどのように向き合い、いかなる応答をしてきたのか、過去2年間の出来事等についても聞き取り等を行なった。

2. 研究成果発表の予定

学外研修期間中に行なった調査研究の成果については、以下の書籍にて発表予定である。

神田孝治他(編)2023(予定)『(仮)現代のツーリズム・モビリティーズ』ナカニシヤ出版。

遠藤英樹他(編)2023(予定)『観光社会学 2023』明石書店。

その他、第14回国際タイ学会(2022年4月)にて、'Creative Turn' in Thai Tourism: A Case Study of the Old Town of Phuket と題する発表を行なっている。また、2023年7月に実施予定の観光学術学会、そして同年12月に実施予定の日本観光研究学会でも発表を検討している。

3. その他

学外研修期間中に実施した、タイ北部先住・少数民族社会における調査研究については、それを発展させた新たな研究プロジェクト「タイ国におけるポストコロナ時代の新たな観光実践創出とコミュニティの動態」が令和5年度(2023年度)科研費に採択された。この新たな研究プロジェクトでは、都市から山地の村へと帰還した先住・少数民族の若者に着目し、彼(女)らがポストコロナ時代の生のあり方をいかにデザインしようとしているのか、CBTの新たな動向に着目しながら明らかにしていく。その上で、「第四世界」的状況に生きる人々が自律的かつ持続可能な生活空間を再構築していく際に、CBTはいかなる貢献をしようのか、「共=コモン」の潜在力に着目した、近年の「人新世」に関する思想史的な動向のなかに位置づけて考察していきたいと考えている。以上のような研究のアイデアは、学外研修の機会があったがゆえに生まれたものである。このような貴重な機会を与えてくれた、獨協大学には厚く御礼申し上げます。特に研修中、人事課や教育研究推進課、外国語学部長室、交流文化学科共同研究室の職員の方々には、大変お世話になりました。どうもありがとうございました。